
Cherry Memories

らみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Cherry Memories

【Nコード】

N9682M

【作者名】

らみ

【あらすじ】

少年は繰り返した。

何年も、また何年もと。

いや違う。

これは「一年」であった。

同じ一年を違うシークエンスで何度も繰り返していたに過ぎない。
それは果たして終結を見せるのか。

プロローグ 「与えられた記憶」 (前書き)

これが初投稿になります。らみです。

どこことなく暗め、シリアスめの学園ADVのような雰囲気
醸し出していければいいなと思って自作しました…。

とにもかくにも初めてですので、何も…。

希少にも読んでいただいた方々、

至らない点、アドバイス等よろしく願います；

それでは、どうぞ。

プロローグ 「与えられた記憶」

「

プロローグ」 「与えられた記

憶」
どうしてだ。

どこで間違えたんだろう。
まわりは際限なく透き通った白い空間。
浮いているような、沈んでいるような。
何から干渉を受けない。
そんな空間だ。

頭の中も然り。

記憶というべきものが全くない気がする。
気がする、ということは「記憶が元々あった」という事だけは覚えて
いるのだろうか。

ない 。まるで誰かから、何かから与えられたような記憶し
か。

基礎的な語彙や、知識だけが植えつけられているようで。

一般に「思い出」とでも呼ぶべきものが一切備わってない気がする。
る。

自分の名前さえ教えられてはいないみたいだ。

ただひとつ。

特別に与えられてわかっていることがある。

俺は、死んだ後で、ここにいる。
それだけで。
いつ、なぜ、どうやって死んだのか。
生前の記憶は。

。

それらがわからないことが苛立たいというか。
非常にいたたまれない。

どうにも不思議な気分だ。
他でも、そうならない人などいないだろう。
人は一生を終えれば、跡形もなく消えるものだと思っていた。
まさか、生前の記憶だけ抜き取られて未だ存在しようとは。

生きているわけじゃないのに「存在」だなどと言えるのか
もわからないが。。

とにかく、意識はある。思考力も。
もし、今この瞬間、全ての生前の記憶が戻ったとして。
だからって何になるんだろう。
こんな誰も、何もない空間にいたところで。
記憶なんていくら持ち合わせていようがいまいが何にもならない。
そういう意味で最低限しか与えられていないのかもしれない。
となる。。
取るべき道は一つしかないことになる。

なぜだか、わかる。

次はこちらの記憶がなくなることも。

またここに帰ってきてしまいそうなことも。

それでもこうしなければいけないってことも。

「さて、行くか」

嘆息まじりに小さく呟いた後、重くなる瞼をそのまま素直に閉じて。

それまでの白い空間はいつしか闇に染まり。

記憶が一つ一つ抜き取られるのを感じ、やがてそれさえも感じなくなつて。

俺の全てが、深い闇に沈んでいった。

。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9682m/>

Cherry Memories

2010年10月8日12時57分発行